

出題分析			
試験時間	120分	配点	学部により異なる
		大問数	5題
分量 (昨年比較)	[減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 同程度 難化]
<p>【概評】例年と同じ記述式5題の構成。誘導となる設問がない大問も出題されており、昨年と比較して、難しい問題が多かった。2025年度も頻出分野である、整数、微積分、確率、ベクトルからの出題であった。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	整数	<p>正の整数nの正の約数の個数$d(n)$に関する出題。(1)(2)は簡単であるが、(3)の議論が難しいだろう。</p> <p>(1)2025に関して具体的な計算をさせる問題。(2)(3)と直接の関連はない。(2)素数の累乗に関して不等式の計算をすればよい。</p> <p>(3)nの素因数分解と$d(n)$の関係に気づく必要があり、受験生には難しいだろう。(2)がヒントとなっている。</p>	やや難
2	図形と方程式 円, 軌跡	<p>2つの円からなる図形の問題。</p> <p>(1)は2つの円が2つの共有点を持つ条件を求めるのみで簡単である。</p> <p>(2)Pが(1)で求めた範囲を動くとき、直線に対称な点の軌跡を求める問題。束の考え方や、直線に対称であることの立式の仕方、軌跡の限界など、しっかり勉強しているかどうかで差がつく問題。</p>	標準
3	微分法 積分法	<p>絶対値が入った定積分を含む方程式を満たすaがちょうど4つであるkの範囲を求める問題。変数分離をして、場合分けで絶対値を外せばよい。途中で、数学IIの範囲ではそのまま微分できない関数が現れるので、うまく変数変換して微分する必要がある。文系の受験生にはこの点が少し難しいだろう。</p>	標準

設問別講評			
4	空間ベクトル 平面ベクトル	座標空間でベクトルと実数の変数で表された領域 D に含まれる半径 $10\sqrt{2}$ の円のうち、中心と原点の距離が最小となる時の中心の座標を求める問題。領域を求めた後は平面上のみを考えればよい。領域はベクトルで定義されているが、ベクトル以外で求める方が簡単であったらろう。	標準
5	確率漸化式	5つの点を結んでできる図形に関する確率漸化式の問題。それぞれの点は奇数・偶数どちらかですが、 P_n とならないことに気づけることができれば(2)まで解答できるだろう。ただ、答えが複雑である。	やや難

合格のための学習法

文系としては難しい問題が出題される。問題の解き方によって、解答までの難易度が変わる。普段の学習では解いた問題に関しては多くの解法を研究すると良い。なお、数学が苦手な人は頻出分野の中で自分の解けそうな分野を重点的に学習し、試験本番は解けそうな問に時間を注ぐとよい。整数や確率は全部書き上げられる年もある。なお、数学を得点源にしたい受験生は、分野別に東大文科・京大文系の過去問も学習してみるのも良い。